



◎政府インターネットテレビ『徳光・木佐の知りたいニッポン～守りつなぎ広める日本の心 和食』で和食器の給食、出前授業の様子が放送されています。

女子栄養大学短期大学部非常勤講師
資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』

関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学卒業、佐賀県立有田窯業大学校・常勤講師を経る。

共食・食品ロス・SDGs、共に生きる

「箸の指導では何が良いでしょう？」。たまに尋ねられます。食器屋で環境が専門とはいえ、教員ではないので正直戸惑います。ただあえて言えば、箸使いも良いですが、忘れてならないのは、両口箸に込められた「共食」の意味ではないでしょうか。

ハレの箸、祝い箸・両口箸

先日開催した懇親会では、再認識していただきたいとの思いから、あえて祝い箸を準備しました。祝い箸は袋からして、紅白・結び・寿・松竹梅・鶴亀が施され、長さも末広がりにちなみ八寸（約24cm）。ネット情報でも、中太の形になぞらえ、豊作を祈り「俵箸」、子孫繁栄を願う「はらみ箸」、角を削られ「丸く納める」、塗りなし（無垢）の白木より清める、割り箸のように割らない（別れない）など、さまざまな意味がひそみます。ただ、最も重要な特徴は、両口ではないでしょうか。かたや神、かたや人が共に使うため、両端を細くします。器の中でも、形が「共食」を表すまれな例です。

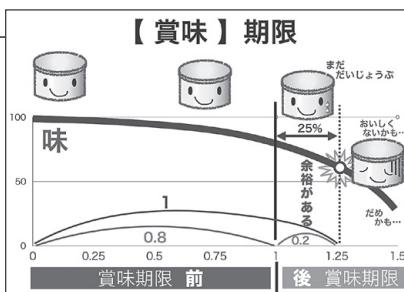


神饌から直会へと、自然・万物の象徴である神に献上された食べ物は、祭り・行事の後で神と人で分け、共食されます。以前、「船う」（2017年1月号）でも書きましたが、神とだけでなく、三三九度・杯を交わす・返杯などの言葉や、杯洗という食具を用い、時間・飲食・器までを人と人でも分け、共有します。皆と共に食し共に生きることが今、世界を横断した目標として掲げられています、SDGsです。

SDGsと食品ロス

SDGsとは、【持続可能な開発のための目標；Sustainable Development Goals】といわれますが、まだ環境関係以外の人からすると、何のことやらわかりません。ですから「世界中の誰もが、今も未来も幸せに暮らせるための、社会をつくるための目標（17個）」と勝手に意訳しました。ただ、これでも、意味はなんとなく漠然とした感じです。例えば食育でいえば、どのようなことでしょうか。具体的に考えてみます。

「食べ物は、水がないと作れないよね。では日本での食べ物を考えてみよう。たまに足りなくなるけれど、比較的日本は水があるよね。では僕たちは、十分に食べ物を作っているかな？ 実はあんまり作ってないよね。ではなぜ餓死や栄養失調にならな

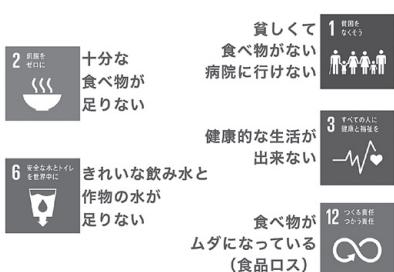


SDGs

(世界中の、みんなが)

Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標	今から未来まで、幸せな社会作り・モノづくり
Goal	ゴール	目標
s	複数	いくつか (17個の)

ぼくらが出来ること？



▲SDGsと食品ロス削減の教材例。「いただきます.info」のHPで公開中。「生きた教材」にできるか試行中
※国のガイドラインでは賞味期限に対して、25%を目安とした余裕が設定されている（安全係数：0.8）

いの？ 海外から食べ物を買うんだね(100 - 食料自給率 = 輸入率)。お金の力で買うんだね。では、海外を考えてみよう。水が乏しい国、お金がない国ではどうかな？ 食べ物が作れなくて、買うこともできない。世界では1日に、きれいな飲み水がないだけで5,000人の子どもたちが死んでいるんだって。栄養失調や飢えて8,000人の子どもたちが死んでいるんだって。その一方で、物の豊かな日本では、食べ物を欲張るだけでなく、その1/3を捨てている」。

SDGsでは、大きな17の課題から構成されますが、その中の一部「貧困・飢餓・健康・水・作る責任と使う責任」に焦点を当て、食育に落とし込んだ例です。SDGsは、共食し共に生きることへの、国際的な取り組みと言い換えられます。

さて日本政府は、SDGs政策にも関連して、家庭系食品ロス半減の実行を表明しました*。今後、食育に対し、賞味期限、喫食前廃棄・皮剥きなど調理時の廃棄・食べ残しなど家庭系食品ロス対策の要望は確実に高まります。食育で誰が伝えるのか、考えておく必要があるかもしれません。

※2015年、国連はSDGsに調印。政府、

SDGsの実行を計る指標の一つとして、家庭系食品ロスを盛り込む(2016年、持続可能な開発目標実施指針)。家庭系食品ロス半減目標を閣議決定(2018年6月、第4次循環型社会形成推進基本計画)。

知識と、動機・行動の距離

さて私事ですが、かつて報道部カメラの助手をしていた時、上司のSカメラマンは、同席する若年者に常に食事をごちそうしました。実際、私自身もずっと甘えさせてもらいました。「小さいころ貧しくて苦労したが、何だかんだ今では生活に困ることなく暮らしている。だから失礼かもしれないけど、自分よりお金がないやつと飯を食うときには俺が出することに決めたんだ」。

社会に理不尽な差がある一方で、分かち共に食べ生きること、これがSDGsの基本です。とはいえ、前記に似たセリフ、世間でもたまに聞きますが、実践した人をほかに知りません。理屈で納得しても、自分自身が行動するのは、難しいものです。ただ、目の前の食品ロス削減が、共食やSDGsにつながるのであれば、何かしらの取り組みはできそうです。